

【3】中里皆瀬地区ってこんなまちです

(中里皆瀬地区の紹介)

将冠岳北西側の裾野と相浦川の両岸、支流の小川内川の両岸の山間部に広がっているのが中里皆瀬地区です。昭和17年に佐世保市に合併されるまで、北松浦郡に属していました。

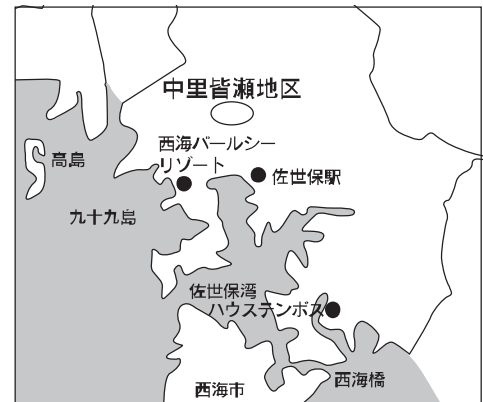
この地区には下本山岩陰遺跡や四反田遺跡があり、縄文時代から弥生時代にかけて古代人が生活していたことが確認されています。また、中里町には江戸時代に平戸藩の郡代役所が置かれ、慶応2年に谷郷町に移転するまで地域の重要な位置を占めていました。

地区の中央を流れる相浦川は柚木地区の郷美谷池に源を発し、大正時代の郷土誌によれば、鮎が飛び跳ね、鰻をはじめ多くの川魚が生息していたと記されています。しかし、当地区は産炭地でもあったため、戦後の産炭振興による洗炭の影響で、河川の汚濁が長く続きました。

今は鷺、オシドリ等が飛来するまでになり、近い将来には下水道施設も整備され、元の清流を取り戻すのも夢ではありません。

また、道路の整備は飛躍的に進んでいて、妙観寺トンネルの開通によって県北方面へのアクセスが容易になりました。さらに平成21年には、西九州自動車道のインターチェンジが完成予定で、ますます広がりのある環境になります。

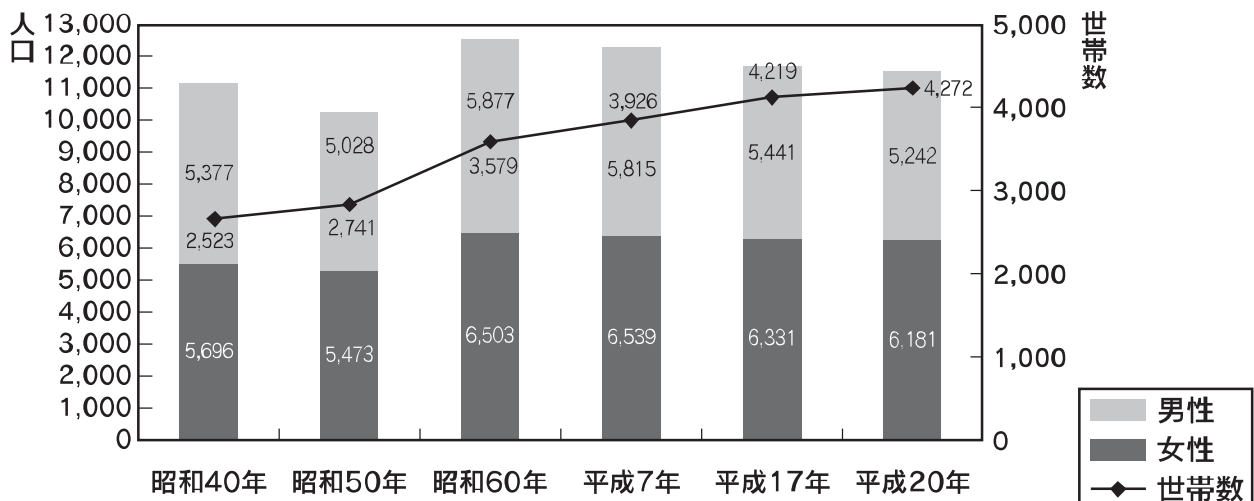
〔佐世保市における中里皆瀬地区の位置〕



★中里皆瀬地区って……どのあたりをいうの？

町名会名	中里上、中里下、下本山、下本山団地、上本山一組、上本山二組、上本山三組、桧台、吉岡一組、吉岡二組、吉岡三組、野中、野中下、八の久保、岳野、皆瀬一組、皆瀬二組、皆瀬三組、白仁田、山住、小川内、十文野、菰田、踊石、踊石新、牧の地、下楠木
------	--

(中里皆瀬地区の人口推移) ※いずれも10月1日時点の統計資料



（中里皆瀬地区“わがまち自慢”）

中里皆瀬地区には“自慢”がいっぱい！その一部を紹介します。

◎つんの一で歩行ラリー

毎年11月第2日曜日に、中里皆瀬地区の最大の行事である「つんの一で歩行ラリー」が開催されます。平成19年度は、スタッフを含めて約1,200人が参加しました。

中学生にとっては、司会などのスタッフとしても参加することができ、地域の方と触れ合えるよい機会にもなっています。

「地域の子どもは地域で育てる」このような地域一体となった取り組みは、他の地区にも誇れる素晴らしい行事です。



◎菰田・岡本水源地

皆瀬から世知原に至る山間に菰田水源地があります。昭和15年当時としては、佐世保市内で最大のダム建設が着工され、地盤の特異性から難工事の末に、莫大な資金と労力で完成しました。

山紫水明の里として、昔から地元住民に親しまれており、今も私達に命の水を供給し続けています。

また、十文野町には明治32年、海軍によって造られた湧水の岡本水源地があります。

どちらも北部の貴重な水源として存在しています。



◎東漸寺

東漸寺は、中里町の平戸街道沿いにある八幡神社から300mほど入った所にあります。山門の大楠は県指定文化財です。

また、寺に保存されている「青銅鏡」は魔鏡とも呼ばれ、市指定文化財となっています。

この寺は、行基菩薩が彫刻した薬師如来像を本尊として、986年に僧観海が創建しました。寺号は岩間山東漸寺といいます。その後、1494年に僧教意が中興し、相浦谷の祈願寺となりました。

平戸藩主が、参勤交代で中里の本陣に投宿した際に、旅の安全を祈願した寺でもありました。

近年、木彫仏像等をはじめ、仏教文化の歴史の深い寺であることが、明らかにされつつあります。



◎中里皆瀬地区公民館まつり

公民館まつりは、公民館活動の一環として、毎年3月上旬に中里皆瀬地区生涯学習推進会の主催により実施されています。

公民館学習のテーマである「創ろう・育てよう・伝えよう」を合言葉に、舞・民謡やカラオケ・フラダンス等の演芸、書道・和洋裁・生け花等が公民館利用者により出展されます。また、地域の方々によるさつまいも加工品や料理教室によるイリコの佃煮等の販売やフリーマーケット等が開かれ、約1,200名が来場し、お互いの親睦につながっています。

